

父親の職業が息子の職業選択に及ぼす影響に関する研究

小 川 一 夫* 田 中 宏 二**

問 題

個人の職業選択に関係する要因は、個人の側における要因と、環境的要因とに大別して考えることができる。前者に関しては、職業興味、能力、価値観、職業知識・イメージ、自己概念、パーソナリティ、などの諸要因が職業選択に重要な変数として作用することを、過去の多くの研究が指摘している。後者については、個人が生活している文化、個人が成員である下位文化、個人が居住するコミュニティ、個人の直接的環境（家族・学校・教会）、などの諸要因をあげる（Crites, 1969）ことができる。さらに岡本（1972）は社会・経済的側面に重点をおき、就業機会の種類と量、職業に対する報酬、社会的評価、親の職業、社会的地位、などの要因をあげている。

職業選択に関するこれまでの研究は、主として個人に内在する要因との関係を扱ってきており、それに比べて環境的要因との関連を分析した研究は数が少ない。特に家族環境は、職業選択に最も直接的かつ重要なインパクトを与えるものと予想されるだけに、その究明が強く望まれる。

職業選択過程への家族の影響に関する研究の流れは、Crites (1969) も指摘するように、(1)子どもが親の職業を継承する程度に関するもの（例えばJenson & Kirchner, 1955）、(2)子による親への同一視が職業選択に果たす役割に関するもの（例えばCrites, 1962）、(3)子に対する親の態度が職業選択に与える影響に関するもの（例えばRoe, 1957）、に分けることができる。なかでも、親の職業を子どもが継承するという行為は、親と子の職業的なかわりを最も強く、かつ端的に表現するものであり、親の職業的影響を解明するためには、十分検討に値する問題と思われる。

職業継承性に関する14の研究をとりまとめたCrites (1969) の報告によると、父親と同一の職業を継承する場合の継承率は12～13%に過ぎず、親の職業と子どもの

職業選択に有意な関係はみられない。一方、専門的、管理的、事務的、技能的、半技能的、未熟練的のように、近接した水準の親の職業を、職業水準としてとりまとめた場合の継承率は20～70%と高くなり、親の職業と子どもの職業選択の間に有意な関係が存在することを示している。しかし、疑問がないわけではない。果たしてかれの言うように、個別的職業の場合の直接的な継承性は存在しないと解することができるであろうか。個々の職業を職業水準としてカテゴリー化した継承性によっては、もはや親と子の職業的なかわりが見失われるのではなからうか。Caplow (1954) は、父親と同一の職業を子どもが継承する場合と、同じ職業水準を子どもが継承する場合とは、明確に区別すべきものであり、後者はこれまで社会的階層の機制に関連して研究されてきた（例えばJackson & Crockett, 1965）と主張している。継承性を職業水準でみた場合、その職業が帰属する社会階層の特徴は明らかにされるけれども、個々の職業のもつ特有性はとかく見落されてしまう。また職業継承性の機制が、一義的に職業階層の上昇移動と解されやすく、親の子に及ぼす職業的影響の過程についての詳細な検討が加えにくくなるなど、問題が少なくない。それに対して、継承性を個々の職業について検討する研究は、親の特定の職業をなぜ子どもが継ぐのかという継承意識の解明に視点があり、どちらかといえば職業指導上の知見を得るために行われてきた（例えば橋本, 1966）。個々の職業の継承性をとりあげたものをみると、最近では、技師、教師、医師の専門職に関する報告（Werts, 1968；中野, 1973）から、継承性の高い存在が認められている。しかし、個々の職業についての研究は、どうしてもとりあげる職業の数が限られてくる。職業の種類を拡げたMortimer (1974) の研究では、医師、弁護士、科学者、公務員、教師、芸術家などの12職業について検討し、職業によって継承率に違いがあるけれども、職業継承性の存在を確認している。継承性の研究では、このように個々の職業について、さらに幅広く職業をとりあげて検討することの必要性が痛感される。

* 広島大学教育学部

** 大分医科大学

これまでみてきた職業継承性は、親の職業と子どもの職業選択の直接的な関係づけを行ったものであるが、実際は親の職業が子どもの職業選択を直接規定しているのではなく、親の職業の影響の過程は複雑なものがあると思われる。それぞれの職業に応じて、親の職業的態度や職業的価値観が形成され、それが家庭の雰囲気を構成し、ひいては家庭生活の中で親と子の相互作用の過程を通して子どもの職業選択に影響してゆくと考えられる。このような想定のもとに、職業継承性を規定すると思われる要因に注目するならば、最近の研究の中に、親への同一視と職業選択の関係 (Crites, 1962; Jackson, et al., 1974)、認知された親子関係と職業選択の関係 (Marr, 1965; 松本・川上, 1974; Medvene & Shueman, 1978)、親の職業的期待と職業選択の関係 (伊藤, 1966; 松本・川上, 1974) など、かなりの研究がみられる。しかしこれらの研究は、親の職業の影響を直接問題とするものではない。すなわち、これらの変数は親の職業と子どもの職業選択の間の媒介変数として扱われてはいない。親の職業が子どもの職業選択に及ぼす影響過程を究明しようとするわれわれの研究にとっては、Goodale & Hall (1976) の研究が示唆的である。彼らは、両親の態度 (学業や進学に対する興味や期待) が親の職業水準と子どもの進学計画・職業計画との関係を媒介することを見出し、親の職業→親の態度→子の進学計画→子の職業計画、という連鎖関係の存在を報告している。松本・川上 (1974) は、親の期待職業と子の希望職業の関係を考察した結果、明確な関連を見出していないが、そこには親の職業からの分析の視点が必要と思われる。伊藤 (1966) は、親の職業水準の違いによって親の期待度と子の希望度の割合が異なると述べている。親の職業的期待は、親の職業と子どもの職業選択の関係に重大な影響を与えることが予想されるので、われわれは職業継承性の規定因として、親の期待要因の検討を試みたい。

その他、職業継承性に影響を与える条件として、個人的属性としての性、出生順位、年齢 (発達段階) 等があげられよう。性についてみれば、従来の職業継承性の研究の多くは、父親一息子の関係を扱ってきた。母親一娘の場合には継承性が認められないのであろうか。

Grandy & Stahmann (1974) によると、類型化された親の職業と子の希望職業の関連度は、父親一息子、父親一娘、母親一娘において有意な関連が認められ、母親一息子には何らの関連も見出されなかった。しかし、Grandyらの研究を追試した De Winne, et al. (1978) は、母親一娘の関係が有意でないという異なった結論を導き出しており、職業と性の関連の複雑さが示唆される。つ

ぎに出生順位に関しては、わが国の社会的慣習として長男が家業を継ぐという行動様式が長い間支配的であった。橋本 (1966) は、農業における長男の後継意識を認めているが、果たしてそれは他の職業についてどの程度いえるのであろうか。また発達段階から考えれば、親の職業の影響は年少段階ほど大きく、自我の確立に伴ない、その影響は弱くなるものと予想される (橋本, 1966)。Hollender (1972) の研究は、年少段階においては母親の職業的影響が強く、年長段階にあつては父親の職業的影響が大なることを報告しており、発達的にみた親の職業的影響には複雑な様相がみうけられる。

本研究の目的は、親の職業が子どもの職業選択に及ぼす影響を、親の職業の継承性の観点から究明することにある。資料は親と子の双方共、両性 (父と母、息子と娘) にわたって広く収集したけれども、本報告はそのうちの息子の職業選択にみられる父親の職業の影響に限定し、父親の職業の継承性の存在を個々の職業を通して検討するため、具体的にはつぎのような問題を設定した。

(1) 親 (父母) は、父親の職業と同じ職業に息子が就くことをどのように期待するのであろうか (親の継承期待)。

(2) 息子は、父親と同じ職業に就くことをどのように希望するのであろうか (息子の継承希望)。

(3) 子どもの出生順位や発達段階のちがいにより、親の継承期待や息子の継承希望に相違が認められるであろうか。

(4) 息子の継承希望は、親 (父母) の継承期待によってどのように影響されるのであろうか。

方 法

調査項目

父母の職業、子どもの認知による父母の期待職業 (父及び母が望むと思う職業) とその理由 (父及び母はどうしてその職業に就くことを望むと思うか)、子どもの希望職業 (将来どんな職業につきたいと思うか) とその理由 (どうしてその職につきたいと思うか)、父母の期待職業に対する子の態度 (賛否)、希望職業に対する父母の態度 (賛否)、ならびに子どもの職業的価値観など、計15問30項目からなる質問票を用いた。質問形式は、父母の期待職業と子の希望職業のそれぞれの理由は自由記述に、他の項目はすべて択一方式に基づいた。

〈職業表〉

親の職業、親の期待職業、および子どもの希望職業については、予備調査 (田中・小川, 1977) に基づき、TABLE 2 に掲げる 37 職業 (他に、100 その他)、

101パートタイマー・内職、102無職を含む)の職業表を呈示して選択させた。なお職業表の作成にあたっては、つぎの点を考慮した。(1)生徒によく知られている職業名であること、(2)職業大分類(労働省、1969)の全領域に

TABLE 1 調査対象

	中学(2・3年) 高校(2・3年)				計	
	男	女	男	女	男	女
調査対象数	1,652	1,230	1,700	1,084	3,352	2,314
分析対象数	1,477	1,117	1,537	1,002	3,014	2,119

広島県：舟入高，修道高，廿日市高，広島工大附高，修道中，和庄中，筒賀中，都谷中，吉和中
愛媛県：松山西高，北条高，長浜高，内子高，雄新中，北条北中，重信中
島根県：頓原中，志々中

わたり，それぞれ典型的と思われる職業であること，(3)職業名は必ずしも職業分類上の名称にこだわらず，社会の一般通念として親しまれている呼称によること，(4)職業水準，職業カテゴリーにまとめないで，個別的な職業を用いること，などである。

調査の実施手続

a. 調査対象

広島・愛媛・島根の3県の中・高校18校の生徒合計5,666名を調査の対象とした(TABLE 1)。調査対象の抽出は，都市部(3,702名)，農村部(1,964名)より有意抽出法に基づいた。出生順位別の構成は，長子(男60.5%，女68.5%)，非長子(男39.5%，女31.5%)である。本報告の分析では，男子資料中より，両親が存在し，父親が有職の者で，かつ記入もれや記入不備のない

TABLE 2 男子の父親の職業別人数

職 業 名	人数	職 業 名	人数
A. 専門的・技術的職業	526	x _d その他の販売的職業	9
22 工場の技師	105	E. 運輸・通信の職業	216
7 土木・建築技師	141	34 鉄道職員	66
36 幼・保育園教師	1	2 バス・タクシー・トラックの運転手	111
31 小・中・高教師	125	1 バスガイド・バス車掌	2
5 大学教師・研究者	22	28 船 員	32
14 医者・獣医・歯科医	70	x _e その他の運輸・通信の職業	5
35 薬剤師	14	F. 技能工・生産工程の職業	477
18 看護婦	0	21 工場の作業者	291
8 栄養士	2	15 自動車整備士・修理工	25
3 弁護士	1	6 大 工	103
33 宗教家(僧侶・神主・牧師)	14	27 左 官	33
30 新聞記者	7	37 洋服師(洋服のデザイナー)	6
9 芸術家(音楽家・画家など)	3	x _f その他の技能工・生産工程の職業	19
10 芸能人(歌手・テレビタレントなど)	1	G. サービス的職業	42
x _a その他の専門的・技術的職業	20	4 美容師・理容師	11
B. 管理的職業	81	20 コック・調理師・板前	8
25 町工場主	59	x _g その他のサービスの職業	23
x _b その他の管理的職業	22	H. 保安的職業	64
C. 事務的職業	862	19 警察官	19
17 会社の事務員	433	16 自衛隊員	42
11 銀行員	78	x _h その他の保安的職業	3
23 公務員	320	I. 農業・林業・漁業	307
x _c その他の事務的職業	31	26 農 業	277
D. 販売的職業	290	12 漁 業	20
24 小売店主	180	x _i その他の農・林・漁業	10
13 飲食店主	23	J. 分類不能の職業	149
32 商店員	45		
29 セールスマン	33	総 数	3,014

(注) 職業名の番号は，職業表に記載された順番(アルファベット順)である。

者, 3,014名の資料が用いられた。

b. 父親の職業

分析に用いた男子資料から, 父親の職業分布をとりまとめると TABLE 2 の通りである。父親の職業の 90.3% は職業表に掲げた37職業に該当した。本資料の場合, 全国職業別人数 (昭和50年国勢調査, 1977) に比べて, 専門的・技術的職業, 事務的職業の割合が高く, 技能工・生産工程の職業の割合が低く, やや標本の歪みが認められる。その原因は, 主として地域的な偏りにあると思われる。すなわち, 広島市ならびに松山市の都市部とその周辺を中心に標本抽出を行ったため, いわゆるホワイトカラーが多くなり, 生産工程従事者が少なくなったものと推察される。その他, 父親の年齢層が制約されていることも関係すると思われる。

c. 調査期日と調査手続

調査時期は昭和52年7月7日から7月20日にかけてであり, 筆者あるいは学級担任の教示により, 集合調査法を用いて資料が求められた。

資料の整理法

継承性分析の整理法として, 当該職に父親が就いている場合の息子による当該職への継承志向を, 当該職以外の職に父親が就いている場合の息子による当該職への就職志向と比較することにより, 職業の継承性が実際に存在するかどうかを個々の職業について究明することとした。これら継承志向指標ならびに就職志向指標の算出法は, TABLE 3 に掲げる通りである。継承性に関する7指標 (TABLE 4) の中で基本的な指標は, 父親の継承期待, 母親の継承期待, 及び子どもの継承希望の3つである。親と子の一致率指標は, 現実の継承行動への可能性を示すものと思われる。

期待職業と希望職業に関するそれぞれの理由 (自由記述) の整理は, 筆者らの判断により便宜的に分類カテゴリー (7 カテゴリー, 19下位カテゴリー) を設けて行った。

TABLE 3 継承指標と就職指標

継承期待率	$= \frac{\text{当該父職の子による継承を親が期待する人数}}{\text{当該職に父が就いている人数 (当該父職人数)}} \times 100$
継承希望率	$= \frac{\text{当該父職の継承を子が希望する人数}}{\text{当該父職人数}} \times 100$
継承期待・希望一致率	$= \frac{\text{当該父職の継承に関する親の期待と子の希望の一致数}}{\text{当該父職人数}} \times 100$
就職期待率	$= \frac{\text{当該職への子の就職 (当該職の継承を除く) を期待する親の人数}}{\text{非当該父職人数 (全体 - 当該父職人数)}} \times 100$
就職希望率	$= \frac{\text{当該職への就職 (当該職の継承を除く) を子が希望する人数}}{\text{非当該父職人数}} \times 100$
就職期待・希望一致率	$= \frac{\text{当該職の就職 (当該職の継承を除く) に関する親の期待と子の希望の一致数}}{\text{非当該父職人数}} \times 100$

TABLE 4 継承志向率と就職志向率

当該父職人数50以上

職業大分類名	職業名	当該父職人数	継 承 志 向 率							就 職 志 向 率						
			父期待継承率	母期待継承率	父期待・母一致継承率	子希望継承率	父期待・子希望一致継承率	母期待・子希望一致継承率	父期待・母希望一致継承率	非当該父職人数	父期待就職率	母期待就職率	父期待・母一致就職率	子希望就職率	父期待・子希望一致就職率	母期待・子希望一致就職率
専門的・技術的職業	22工場技師	105	8.6**	4.8**	2.9†	17.1**	3.8**	2.9	1.9	2909	1.3	1.1	0.7	6.7	0.8	0.9
	7土木・建築技師	141	19.9**	6.4**	5.7**	18.4**	7.1**	3.5*	3.5**	2873	1.8	1.3	0.8	5.8	1.1	1.1
	31小・中・高教師	125	16.0**	15.2**	8.0**	18.4**	6.0**	8.0**	4.8**	2889	2.7	4.1	1.7	6.1	1.0	1.7
	14医者・獣・歯科医	70	65.7**	61.4**	55.7**	57.1**	47.1**	42.9**	40.0**	2944	6.0	6.7	3.7	5.5	2.4	2.6
管理的職業	25町工場主	59	18.6**	10.2**	8.5**	6.8**	5.1**	3.4**	3.4**	2955	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
	17会社の事務員	433	5.3**	3.7**	3.0**	6.9**	1.8**	1.4**	1.4**	2581	0.7	0.7	0.3	2.0	0.0	0.2
事務的職業	11銀行員	78	7.7**	5.1**	3.8**	3.8	2.6**	2.6**	2.6**	2936	0.4	0.5	0.1	1.2	0.0	0.1
	23公務員	320	19.4**	12.8†	10.0**	22.5**	8.1**	5.3	5.0*	2694	9.0	9.6	5.6	12.2	3.5	3.7
販売的職業	24小売店主	180	20.0**	12.2**	11.1**	11.7**	5.6**	5.6**	5.0**	2834	0.2	0.1	0.0	1.4	0.1	0.0
	34鉄道職員	66	6.1**	3.0**	3.0**	7.6**	3.0**	3.0**	3.0**	2948	0.1	0.2	0.0	0.9	0.1	0.0
運輸・通信の職業	2バス・タク・トラ運転手	111	1.8**	0.9*	0.9*	4.5**	1.8**	0.9*	0.9*	2903	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
	6大工	103	6.8**	1.9*	1.9**	5.8**	2.9**	1.9**	1.9**	2911	0.2	0.3	0.1	0.5	0.1	0.1
技能・生産工程の職業	21工場作業員	291	2.4**	2.1**	1.4**	3.4**	1.0*	1.0*	1.0*	2723	0.2	0.3	0.1	0.7	0.2	0.2
	26農業	277	13.7**	9.4**	7.9**	6.1**	1.8**	2.9**	1.8**	2737	0.1	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0
農業・林業の職業		277	13.7**	9.4**	7.9**	6.1**	1.8**	2.9**	1.8**	2737	0.1	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0
X (N=14)			13.1**	8.4**	6.8**	11.8**	5.2**	4.5**	3.9**		0.9	1.0	0.0	0.5	0.3	0.4

(注1) 継承志向率 vs. 就職志向率: X²検定 (Yatesの修正), df=1, **P<.01, *P<.05, †P<.10

(注2) Xの差の検定は、角変換に基づく t 検定 (Cochran-Cox), df=13

た。

なお、職業は37種を用いたけれども、解析は当該職に父親が50人以上就いている職業14種についてのみ試みた。これら14種の当該父職の人数合計は、総資料の78.3% (2,359名) を占める。したがって、これら14の職業を主要な職業と見なすことが許されよう。

結 果

親の継承期待

14の職業について、父が当該職にある場合、親(父)が息子に対して抱く継承期待と、父が当該職に就いていない場合に、親(父母)が息子に対して抱く当該職への就職期待をTABLE 4に示す。それぞれの職業について、父が当該職にある場合の継承期待を、父がその職にない場合の就職期待と対応させてみるなら、14のすべての職業において父母双方の継承期待が有意に高いことが分る。

しかし、親の継承期待の程度には、父親の職業により相当の差がみられ(父期待1.8~65.7%, 母期待0.9~61.4%), このうち特に高い継承期待率(15%以上)を示すのは、医者、小中高教師(以上父母双方において)、小売店主、土木・建築技師、公務員、町工場主(以上父親において)である。

父母間における継承期待度の相違の点では、3職業(小売店主、土木・建築技師、公務員)にあって父親の期待度が有意に高いという特徴が認められるけれども、その他では父母間の継承期待はかなりよく対応している($r_s=.881$, $p<.01$)。

息子の継承希望

父親の職業に対する息子の継承希望は、当該職に親が就いていない息子による当該職への就職希望に比べて、

銀行員を除くすべての職業において有意に高い。

しかし子どもの継承希望の程度には、父親の職業によりかなりの差異がみられ(3.4~57.1%), なかでも高い継承希望率(15%以上)を示すのは、専門的・技術的職業の4職業と公務員である。一般の就職希望においても専門的・技術的職業への志向性は高く、子ども一般に認められる傾向であるともいえるが、継承希望ではその傾向が一層顕著に現われている。

したがって就職希望と比較する限り、今日なお大部分の職業において、職業継承性は存在すると考えることができる。

親の継承期待と息子の継承希望の一致

親の継承期待と息子の継承希望の程度は、職業間で概ね対応している(父子間, $r_s=.754$, $p<.01$; 母子間, $r_s=.714$, $p<.01$) が、いくつかの職業では父子間にずれがみられる。すなわち、農業、小売店主、町工場主では息子の継承希望に比べて親の継承期待の方が、逆に工場技師では親の継承期待に比べて息子の継承希望の方が、それぞれ有意に高い。

親の継承期待と息子の継承希望が一致する程度は、当該職に父親が就いていない場合の就職期待と就職希望の一致率に比較して、ほとんどの職業で有意に高い。これらの一致率は、子どもによって実際に継承行動のとられる可能性の程度を示唆すると思われるが、全般的に数値そのものはあまり高いものではない。

出生順位と発達段階

a. 出生順位について

親の継承期待と息子の継承希望について、長男と非長男を比べた結果がTABLE 5に示される。長男に対して持つ親の継承期待が非長男に比べて有意に高いのは、自

TABLE 5 継承志向率(出生順位と発達段階)

職業大分類名	職業名	当該父職 人数		父継承期 待率(%)		母継承期 待率(%)		父・母継承期 待一致率(%)		子継承希 望率(%)		当該父職 人数		父継承期 待率(%)		母継承期 待率(%)		父・母継承期 待一致率(%)		子継承希 望率(%)	
		長男	非長男	長男	非長男	長男	非長男	長男	非長男	長男	非長男	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高
専門的・技術的 職業	22工場技師	92	13	9.8	0.0	5.4	0.0	3.3	0.0	19.6	0.0	52	53	5.8	11.3	7.7	1.9	3.8	1.9	9.6	<24.5
	7土木・建築技師	99	42	19.2	21.4	5.1	9.5	4.0	9.5	19.2	16.7	73	68	17.8	22.1	6.8	5.9	5.5	5.9	13.7	23.5
	31小・中・高教師	89	36	16.9	13.9	18.0	8.3	9.0	5.6	21.3	11.1	50	75	12.0	18.7	8.0	<20.0	6.0	9.3	10.0	<24.0
	14医者・獣・歯科医	54	16	70.4	50.0	64.8	50.0	59.3	43.8	57.4	56.3	38	32	57.9	75.0	60.0	62.5	52.6	59.4	60.5	53.1
管理的職業	25町工場主	41	18	22.0	11.1	14.6	0.0	12.0	0.0	7.3	5.6	20	39	10.0	23.1	10.0	10.3	5.0	10.3	5.0	7.7
事務的職業	17会社の事務員	339	94	5.0	6.4	3.5	4.3	2.7	4.3	6.2	9.6	199	234	5.5	5.1	3.5	3.8	2.5	3.4	7.5	6.4
	11銀行員	61	17	9.8	0.0	6.6	0.0	4.9	0.0	4.9	0.0	36	42	2.8	11.9	0.0	9.5	0.0	7.1	2.8	4.8
	23公務員	227	93	21.6	14.0	13.7	10.8	11.0	7.5	22.0	23.7	140	180	10.7	<26.1	9.3	<15.6	6.4	<12.8	19.3	25.0
販売的職業	24小売店主	133	47	23.3	>10.6	15.0	>4.3	13.5	>4.3	12.0	10.6	82	98	20.7	19.4	13.4	11.2	12.2	10.2	15.9	8.2
運輸・通信の 職業	34鉄道職員	47	19	6.4	5.3	2.1	5.3	2.1	5.3	6.4	10.5	27	39	3.7	7.7	3.7	2.6	3.7	2.6	14.8	2.6
	2バス・タクシー運転手	83	28	1.2	3.6	0.0	3.6	0.0	3.6	4.8	3.6	68	43	1.5	2.3	0.0	2.3	0.0	2.3	5.9	2.3
技能・生産工程 の職業	6大工	69	34	7.2	5.9	1.4	2.9	1.4	2.9	5.8	5.9	58	45	12.1	>0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	10.3	>0.0
	21工場作業員	210	81	3.3	0.0	2.9	0.0	1.9	0.0	4.3	1.2	155	136	3.2	1.5	3.2	0.7	3.2	0.7	5.2	1.5
農業・林業の職業	26農業者	161	116	18.6	>6.9	14.3	>2.6	11.8	>2.6	8.1	3.4	103	174	10.7	15.5	7.8	10.3	4.9	9.8	6.8	5.7
\bar{X} (N=14)				14.5	7.5	9.0	4.2	7.1	3.7	12.5	8.2			10.5	14.0	7.0	8.2	9.9	7.1	11.8	10.4

(注) 長男 vs. 非長男、中学生 vs. 高校生: X^2 検定 (Yatesの修正) $df=1$ 、 $<\dots P<.01$ 、 $<\dots P<.05$ 、 $<\dots P<.10$

TABLE 6 親の継承期待と子どもの継承希望の関係

父職人数50以上

職業大分類名	職業名	子どもの継承希望率(%)				
		父母共に継承期待あり	父のみ継承期待あり	母のみ継承期待あり	父母いずれか一方のみ継承期待あり	父母共に継承期待なし
専門的・技術的職業	22工場技師	3 66.7	6 (33.3)	2 (50.0)	8 37.5	94 13.8
	7土木・建築技師	8 62.5	20 (25.0)	1 (0.0)	21 23.8	112 14.3
	31小・中・高教師	10 60.0	10 (20.0)	9 (44.4)	19 31.6	96 11.5
	14医者・獣・歯科医	39 71.8	7 (71.4)	4 (50.0)	11 63.6	20 25.0
管理的職業	25町工場主	5 40.0	6 (16.7)	1 (0.0)	7 14.3	47 2.1
事務的職業	17会社の事務員	13 46.2	10 (20.0)	3 (0.0)	13 15.4	407 5.4
	11銀行員	3 66.7	3 (0.0)	1 (0.0)	4 0.0	71 1.4
	23公務員	32 50.0	30 (33.3)	9 (11.1)	39 28.2	249 18.1
販売的職業	24小売店主	20 45.0	16 (6.3)	2 (50.0)	18 11.1	142 7.0
運輸・通信の職業	34鉄道職員	2 100.0	2 (0.0)	0 (—)	2 0.0	62 4.8
	2バス・タク・トラ運転手	1 100.0	1 (100.0)	0 (—)	1 100.0	109 2.8
技能・生産工程の職業	6大工	2 100.0	5 (20.0)	0 (—)	5 20.0	96 3.1
	21工場作業員	4 75.0	3 (0.0)	2 (0.0)	5 0.0	282 2.5
農業・林業の職業	26農業	22 22.7	16 (0.0)	4 (75.0)	20 15.0	235 3.8
X(N=14)		70.3	(19.5)	(15.6)	21.9	7.1

P<.001, t=7.423, df=16.39(Welch法) P<.10, t=1.905, df=15.42

P<.01, t=3.561, df=25.26

TABLE 7-1 継承理由と就職理由(父親)

	個人的	経済的	仕事の	社会的	家庭的	その他	D.K & N.R	計
父継承期待	19(.06)	68(.21)	4(.01)	4(.01)	184(.58)	12(.04)	28(.09)	319
父就職期待	87(.13)	338(.49)	27(.04)	46(.07)	49(.07)	41(.06)	101(.15)	689
計	106	406	31	50	233	53	129	1,008

 $X^2=317.946$, $df=6$, $p<.001$ () ; 相対度数

TABLE 7-2 継承理由と就職理由(母親)

	個人的	経済的	仕事の	社会的	家庭的	その他	D.K & N.R	計
母継承期待	17(.08)	54(.25)	6(.03)	5(.02)	99(.46)	16(.07)	20(.09)	217
母就職期待	108(.14)	389(.52)	26(.03)	50(.07)	41(.05)	37(.05)	98(.13)	749
計	125	443	32	55	140	53	118	966

 $X^2=229.393$, $df=6$, $p<.001$ () ; 相対度数

TABLE 7-3 継承理由と就職理由(子ども)

	個人的	経済的	仕事の	社会的	家庭的	その他	D.K & N.R	計
子継承希望	66(.22)	66(.22)	22(.07)	8(.03)	89(.29)	31(.10)	23(.08)	305
子就職希望	544(.40)	326(.24)	144(.11)	99(.07)	37(.03)	116(.09)	82(.06)	1,348
計	610	392	166	107	126	147	105	1,653

 $X^2=265.379$, $df=6$, $p<.001$ () ; 相対度数

(注) 理由の下位カテゴリー

個人的理由: 興味, 適性, 資格

経済的理由: 収入, 生活安定

仕事の理由: らくな, やりがい, 将来性, 自主独立

社会的理由: 人助け, 社会的地位, 世間を知る

家庭的理由: 家業継承, 家人に習う, 類似の経験, 親の勧め

営業である小売店主と農業のみであり, 息子の継承希望ではいずれの職業についても出生順位の差が認められない。職業継承性における出生順位の影響は, 今や消失しつつあると言える。

b. 発達段階について

父親の職業的影響としての職業継承性は, 年少段階でより強く現われると予想されたが, 中学生と高校生を比較する限り, 全体的には発達段階の傾向がほとんど認め

られない。

個々の職業別では, 発達の上の段階において子どもの専門的職業(工場技師, 小中高教師)への継承志向が一層顕著である。また公務員と小中高教師では, 上の段階において親の継承期待が有意に高まっており, 親の安定性志向の態度がうかがえる。

親の継承期待と息子の継承希望の関係

職業の継承性にあつては, 親の期待が重要な変数であ

り、親の職業と子どもによるその職業の選択(継承希望)を媒介するものと予想された。当該職に父親が就いていて、親(父母)の継承期待がある場合とない場合の息子の継承希望を分析してみる(TABLE 6)なら、両親からの継承期待をになう息子の継承希望が最も高く、ついで父母いずれか一方の期待をになう息子の継承希望が高く、両親の継承期待をまったく受けない息子の場合の継承希望が最も低い。この3群間の継承希望率には、有意差が認められる。息子の継承希望率は、職業間でかなり著しい差のあることをさきにみてきたが、両親からの継承期待をになう息子の場合の高い継承希望率には、職業間の違いが比較的小さい。

したがって、どの職業においても、息子の継承希望への父親の職業の影響過程には、親(父母)の継承期待が強く媒介していると解される。

継承志向の理由

親の職業の継承を志向する場合の理由や動機は、親の職とは異なる職業への就職志向に比べ、異なるものとすると予想されたので両者の比較を試みた(TABLE 7)。個々の職業については統計的分析に耐えられないので、全職業を一括して継承志向の全体的な傾向を検討することとした。

父親の職に息子が就くことを望む継承期待と父親の職とは異なる職に息子が就くことを望む就職期待群では、両群の期待理由に有意な差がみられ、継承期待では「家庭的理由」を、就職期待では「経済的理由」をあげるものが父母ともに多い。息子の場合も同様に、継承希望群と就職希望群の希望理由に有意な差が認められる。継承希望では「家庭的理由」を、就職希望では「個人的理由」を記すものが多い。

この結果から、職業継承への影響過程には、親の勧め、親の願い、家業の見習い、などの家庭的な制約が強く作用しているものと解される。

考 察

現在でもなお職業の継承性が存在するかどうか。継承性が存在する場合、それが子どもの出生順位や発達段階により異なるかどうか。親の期待が継承性を規定しているかどうか。このような問題を解明することが本研究の目的であった。

職業の継承性

父親の職業に対する息子の継承希望は、当該職に父親が就いていない息子による当該職への就職希望に比べると、とりあげた14種の職業のほとんどにおいて有意に高い割合を示し、明らかに職業継承性の存在が認めら

れた。14の職業での平均継承希望率は11.8%であり、Crites(1969)が従来の継承性研究をまとめて得た結果の12~13%と、また最近Mortimer(1974)が12種の父親の職業について男子大学生の継承希望率を調べた結果の10.8%と奇しくも符合する。こうしてみると、職業を個人にとりあげた場合の継承率の平均は、概ね10%強にとどまるといえよう。

職業大分類レベルで職業継承性の特徴をみるならば、専門的・技術的職業、それに安定職としての公務員などが息子に継承されやすいことが分る。親もまた同種の職業の継承を息子に期待しているが、自営業(小売店主、町工場主、農業)のみは息子の希望に比べて親の期待が高く、しだいに継承性が低下してゆく運命にあるとみられる。他方、工場作業員、運転手などの非専門的・低度技術的職業は、親と子の双方において継承性が低い。その意味で職業継承性の強さは、社会経済的地位を反映する職業水準の影響を免れないと解される。われわれは個々の職業的観点に立ったけれども、職業水準の観点からの分析も職業継承性の解明には必要と思われる。

つぎに、個々の職業の継承性をとりあげたこれまでの研究結果と比べてみよう。Werts(1968)は専門的職業に焦点を置いて、大学生の息子の職業選択希望と父親の職業の関係を分析した結果、継承希望率は教師18.3%、技師24.8%、医師41.1%と報告している。われわれの場合、教師18.4%、技師(土・建技師と工場技師の合併)17.7%、医師57.1%であり、教師は同率であるが技師と医師の継承率に若干のくい違いが認められる。これには調査対象者(息子)の年齢の違いや職業の社会経済的背景の相違などが関係しているかもしれない。中野(1973)は、現在の医師が自分の子弟をどの程度医師にしたいと考えているかを調べ、継承期待率41.9%の結果を得ている。本研究の65.7%(父期待)と比べると、値はやや低いけれども、いずれにしても医師の継承期待率は他の職業に抜kindで高い。

父親の職業と息子の間で認められる職業継承性は、母親の職業と息子の場合にはどうであろうか。母親の当該職に就いている人数が35人以上である10種の職業について、母親の職を息子が継承しようとする継承希望率を求めるなら、平均4.6%に過ぎず、母職—息子の関係は父職—息子に比べてはるかにその絆の弱いことがわかる。類似した結果が、Hollandの職業類型化に基づいて親の職業と子どもの職業希望の関係を究明した研究(Grandy & Stahmann, 1974; De Winne, et al., 1978)にも見出されており、一般的な傾向と思われる。このように父親と息子の高継承性の存在することは、職業の性

による規制にもよると思われるが、父親が息子の職業的
社会化の過程で果たす役割、それも自分の職業を通して
果たす役割の大きいことを物語るものであり、父親の職
業が息子にとって重要な意味をもつことが改めて認識さ
れる。

継承性と出生順位・発達段階

息子の継承希望には出生順位による相違が全く認めら
れず、長男だから親の跡を継ぐといった長男継承意識は、
子どもにおいてはもはや消滅していると考えざるを得な
い。しかし両親の期待の方では、自営業である農業や小
売店主では明白に、またその他の職業でも傾向的に、長
男に対する継承期待が高いようにみうけられ、長男に寄
せる親の継承期待意識はなお残存している。長男の職業
継承にかかわる期待と希望には、このように親と子の間
にずれが認められる。

発達のには、年少段階において親の影響が強く、自我
の確立とともに影響が薄れてゆくと思われたが、この仮
説は結果的には支持されなかった。しかし個別の職業で
は発達の上の段階において、専門的・技術的職業への継
承志向が一層強くなるという発達の傾向を一部に認める
ことができた。Mortimer (1974) は、大学1年生から4
年生へと継承希望率を縦断的に研究した結果、一般に上
級学年において父親の職業を継承しようとする傾向が高
くなり、わけでも医師、歯科医、弁護士、ビジネスマン、
科学者、公務員の継承率が高まることを報告している。
果たして専門的・技術的職業への継承志向が、発達段階
の上昇とともに真に高まると解すべきか、むしろ職業水
準にみられる上昇移動とみなすべきかは、なお今後の研
究を待たなければならない。

継承性と親の期待要因

先の結果から、親の期待は職業継承性を規定する要因
であることが実証された。このように媒介変数を取りあ
げることによって、親の職業と子どもの職業選択の関係
を一層明確化する研究は、Goodale & Hall (1976) の例
にもみることができる。親の期待が職業継承性のすべて
を決定づけるものではないにしても、それが継承性を大
きく規定する要因であることには間違いない。

しかしながら、親の期待が子どもの職業選択に及ぼす
効果は、継承性の場合のみにみられる現象ではないよう
である。当該職に父親が就いていない息子による当該職
への就職希望率は、父母共に就職期待を抱く場合に平均
64.8%の高い値を示している。したがって、職業選択に
対する親の期待効果は、継承性に強く現われる現象とい
え、職業選択の全般にかかわる一般的な現象と解され
る。

問題は期待率が就職志向と継承志向で異なるところに
ある。既に結果のところで見たとおり、14すべての職業に
おいて父母双方の継承期待が就職期待より有意に高い値
を示した。父母の期待一致率もまた継承性の方が有意に
高く、父母の就職期待一致率は非常に低い (TABLE 4)。
したがって結果的に、親の期待は息子の就職希望に対す
るより継承希望に対して強く影響することになるよう
である。

今後の課題

本研究からは、父親の職業の継承性が息子にはなお残
存することを認めることができた。女子においても同じ
ように職業の継承性が見出されるかどうかの問題は、今
後検討してみる価値が十分あるように思われる。女子に
関するこの種の研究は極めて少ないが、われわれの資料
では母親の46.6%が有職者 (パート、内職を除く) で
あり、娘の職業選択に母親の職業が与えている影響を解
明することも可能のようである。

つぎに考えられる課題は、親の職業と子どもの職業選
択の関係を、同一職業間での直接的な職業継承性とは異
なる観点から分析してみることである。親の職業的影響
は、必ずしも同一職の継承のみに存在するのではなく、あ
る種の関連ある職業群への選択行動となって現われるか
もしれない。あるいはまた、ある種の親の職業群が一致
した子どもの職業選択を引きおこすという形で、親の職
業的影響が起るかもしれない。前者の例は、Mortimer
(1974) が親の職業と機能的に類似した職業を息子が選
択しやすいと報告していることに、後者の例は、Werts
(1968) が社会科学の分野の職業に従事する父親の息子
には教師を希望する者が多いと報告していることにみる
ことができる。継承性を単一の職業についてみる視点は、
職業の固有性を究明する上で必要であるけれども、親の
職業の影響過程の総合的視野からは職業間の関連性にま
で広げる視点も要請されてくる。

第3に、親の職業と子どもの職業選択の間に介在する
変数として、親の期待の効果をわれわれは実証したけれ
ども、なお他の有効な変数の究明が重要と思われる。親
との同一視は、子どもが親の行動をモデル化して社会的
な役割を獲得してゆくことを援助する効果を持つもので
あり、介在変数としても検討する価値が十分あると考え
られる。

要 約

本研究の目的は、父親の職業が息子の職業選択に及ぼ
す影響を、父親の職業の継承性の観点より分析すること
にある。

広島・愛媛・島根の3県の男女の中・高校生5,666名を対象として、親の職業、親の期待職業とその理由、子どもの希望職業とその理由など、15問30項目からなる調査を実施した。本論文では男子中学生1,477名、男子高校生1,537名の合計3,014名の資料が分析された。判明した主な結果は、つぎの通りである。

(1) 父親の職業に対する息子の継承希望は、当該職に親が就いていない息子による当該職への就職希望に比べて、ほとんどの職業において有意に高く、したがって職業の継承志向性を認めることができた。特に高い継承希望率を示すのは、専門的・技術的職業および公務員である。

(2) 父親が当該職にある場合の継承期待を、父親が当該職にない場合の就職期待に比べると、すべての職業において父母双方の継承期待が有意に高い。特に高い継承期待率が医者、教師、小売店主、土木・建築技師、公務員、町工場主に認められる。

(3) 息子の継承希望には、出生順位による相違がまったく認められない。しかしながら親の継承期待は、非長男よりも長男に対して高い傾向が示された。また発達のには、年少段階において親の影響がより強く現われるものと予想されたが、結果的には支持されなかった。

(4) 両親からの継承期待をになう息子は、いずれか一方の親の継承期待をになう息子、あるいは両親の継承期待をまったく受けない息子に比べて、その継承希望率が有意に高い。したがって父親の職業の継承過程には、親の継承期待が媒介していると解することができる。

〈付記〉

資料の収集に当っては、対象校の先生方、愛媛県教育センター教育相談・進路指導室の片岡昇氏、紅谷博美氏の格別のご援助をいただいた。記して感謝の意を表します。

文 献

- Caplow, T. 1954 The sociology of work. Minneapolis : Univ. of Minnesota Press
- Crites, J. O. 1962 Parental identification in relation to vocational interest development. *J. educ. Psychol.*, 53, 262-270
- Crites, J. O. 1969 Vocational psychology. New York : McGraw-Hill
- DeWinne, R. F., Overton, T. D. & Schneider, L. T. 1978 Types produce types—especially fathers. *J. voc. Behav.*, 12, 140-144
- Goodale, J. G. & Hall, D. T. 1976 Inheriting a career : The influence of sex, values, and parents. *J. voc. Behav.*, 8, 19-30
- Grandy, T. G. & Stahmann, R. F. 1974 Types produce types : An examination of personality development using Holland's theory. *J. voc. Behav.*, 5, 231-239
- 橋本昭治 1966 児童生徒における家業後継意識の発達進路指導, 39, 537-540
- Hollender, J. 1972 Differential parental influences on vocational interest development in adolescent males. *J. voc. Behav.*, 2, 67-76
- 伊藤惣右衛門 1966 親の子に対する職業的期待 進路指導, 39, 431-432
- Jackson, E. F. & Crockett, H. J. Jr. 1964 Occupational mobility in the United States. *Amer. sociol. Rev.*, 29, 5-15
- Jackson, R. M., Meara, N. M. & Arora, M. 1974 Father identification, achievement, and occupational behavior of rural youth. *J. voc. Behav.*, 4, 85-96
- Jenson, P. G. & Kirchner, W. K. 1955 A national answer to the question, "Do sons follow their fathers' occupations ?". *J. appl. Psychol.*, 39, 419-421
- Marr, E. 1965 Some behaviors and attitudes relating to vocational choice. *J. counsel. Psychol.*, 12, 404-408
- 松本純平・川上善郎 1974 中学生の希望職業と認知された親子関係について 職業研究所研究紀要, 8, 13-29
- Medvene, A. M. & Shueman, S. A. 1978 Perceived parental attitudes and choice of vocational speciality area among male engineering students. *J. voc. Behav.*, 12, 208-216
- Mortimer, J. T. 1974 Patterns of intergenerational occupational movements : A smallest-space analysis. *Amer. J. Sociol.*, 79, 1278-1300
- 中野秀一郎 1973 Profession における「補充」の問題——医師の場合を中心にして——関西学院大学社会学部紀要, 26, 39-54
- 岡本英雄 1972 職業イメージと職業選択 職業研究所研究紀要, 3, 73-87
- 労働省(編) 1969 職業辞典 雇用問題研究会
- Roe, A. 1957 Early determinants of vocational choice.

J. counsel. Psychol., 4, 212-217

総理府統計局(編) 1977 昭和50年国勢調査解説シリーズ

ズ No.1 我が国の人口 日本統計協会

田中宏二・小川一夫 1977 職業的態度の形成に関する研究——親の職業が子どもの職業選択に及ぼす影響

——日本心理学会第41回大会発表論文集, 1264-1265

Werts, C. E. 1968 Parental influence on career choice. *J. counsel. Psychol.*, 15, 48-52

(1978年9月12日受稿)

ABSTRACT

THE INFLUENCE OF A FATHER'S OCCUPATION ON A SON'S OCCUPATIONAL CHOICE

by

Kazuo Ogawa • Koji Tanaka

The purpose of the present study was to analyse the influence of a father's occupation on occupational choice from the standpoint of a son's inheritance of his father's occupation.

An investigation was carried out with the aid of a questionnaire made of 15 questions on 30 different items for 5,666 boys and girls of junior high schools and senior high schools in three prefectures in Japan. The questionnaire contained parents' occupations, the occupations expected of their offspring by parents and their reasons for the expected occupations, the future occupational choice by offspring and their reasons for the occupational choice, and so on.

In this paper, 1,447 junior and 1,537 senior high school boys composed the analysed subjects. The main results were as follows.

1) Compared with the ratios of the son entering into the competent occupation other than the father's, those entering into the same specific occupation of their father were significantly high in almost all occupations. This meant that there existed a latent occupational inheritance.

Especially high ratios of the son's wish of inheriting were found for sons of professionals, technical workers and public service personnel.

2) Compared with the ratios of parents' expectations of their son choosing the competent occupation

other than the father's, those of their son choosing the father's same specific occupation were significantly high in all occupations.

Especially high ratios of parents' expectations of inheriting were found in occupations such as doctor, teacher, storekeeper, civil and building engineer, public service personnel, and a small factory owner in town.

3) The birth-order has no effect on the son's wish of inheriting. But it was found that parents tended to place their expectations of inheriting on the eldest son.

Concerning the development, it was anticipated that father's influence would be more potent in the younger age than in the older. The results fell short of the anticipation.

4) If we compare the ratios of the son's wish of inheriting in the son who shoulders both his parents' expectations, in the son who does either of them and in the son who does neither of them, those of the son who does both parents' expectations were significantly the highest of the three.

Therefore it was admitted that parents' expectations mediated the relationship between father's occupation and his son's occupational choice, namely, the occupational inheritance-making process.